寶曆版 四卷合一冊

和學辨 全

廿四

立

121.62
Si496w

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w

ガラス使用

121.62 Si496w

帝國圖書館藏書

平維章篠崎氏通称金吾

国立国会
25.3.31
図書館

112327

帝國圖書館藏書

刊和学弁序

道也者如天下之衛之祐樂以
時變刊以芸実今而名以芸
治我

東方必編其風俗而察時々
可参考寧必致之勤周之冕牟
案其実芸和平祐後謂之勝

愛知縣圖書館藏書印

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w

ガラス使用

爲哉道之所以爲
修乎政而不變乎
不改其俗飲食衣服器用宮室
亦勿論書而聖人
而存焉因仍相因仍揖之
皇矣矣子豈亦論乎
時哉而爲哉書實
時利平民所

著和學辨者持來示余且請之
序余取而視之頗
可以爲論俗緊時
於是乎叙余生而
端蓋此之也言
善未藏乎家仁
哉何係其名繇誤
乎

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

和学弁 巻之一

東海 平維章著

和学と云名目ぶ毎ずすまぬ訳なうぬのか
たぐすまぬ訳のそなうんや。ぶ毎ぶおそうぬ訳なう。
和学とのぶをぷ庸俗ぶ対して云又すまぬ
訳な事。庸の世の人庸俗といぶ訳ぷなうぬぶ
繁集の和学といぶ名目ぶ対ぶ
いぶ義なり。今の人乃和学
云ぱ。あがぶをたもんぶする
あがぶ人のぷがぶの事をぷ
あるをぷ和学といぱこか

弁ぶ應書賈ぶ求ぶ乃所
校正前ぶ後論箱當名ぶ評考
評潭失之諭評ぶ余ぶ任ぬ
寛廣戊寅春正月

東都 高橋盛子豊甫識

く。庶ようでまかなり。漢小漢学の名目なく。庶小庶学の名目なく。勢雑小勢雑学と云名目なし。庶小和学の識なり。庶小て日本のまを学事や。勢雑に勢雑名目こりまで。従来ある此小日本の事を学びてるなり。庶や勢雑かて。和学若小名目なるべき。和学の名目こりまで。勢雑に勢雑名目なる。和学小なる名目なり。和学の名目ハすまぬなりがかやうのつまな此名目を。

まだ百年来といなが。和学の名目ハ更より也代のまなり。かゝれなやよりのある事なり。

かのくとのこりの満ち勢雑小和学の名目なく庶よまま也一分なり。人麻呂の名小ある沢。今昔物語小。源俊頼一流まで一分。永中世で和田の京八十路かけてあさおぬとやのくとの分。二首とよめる事也。そのさま也たり。万葉集小。人麻呂の分や。かりくのはて也まで也ぐとも。ぜ分いん人沢。実平延喜の比。人麻呂の分やとぜひおせ一人なり一。小や又たしくなる流授なさ事小古今集を見よ。源頼の勢小拙筆。和田の京をありてその次小二首。漢人ちぐ沢。かのくとなり。その細注小。ある人のいちくぜ分。人麻呂の分なりと有

三

人麻呂のおなりどたしうふあまりなるべよこと
人もろ沢とかくべきいまもなしまことか細なる
もいうね事なりさ世ふまろ人麻呂の分なりこと。
いひもろせしをもろん（きもかこづあ沢読
人もろ沢とか〳〵生〳〵。典之の名をなりひそるべ。
たゞ以前系数者の人麻呂の賛哉て鈔野雄載
ふなまこべ七百年来人麻呂小片付事由で人の
うけわそれ事なれどもも博地のまよいやまるを
も知るがよ〳〵と拾余秋の地がうせられ
生〳〵くのそふれふたまこべ又古今ふみのみ〳〵つま

二

曲

ふあまりさなどのふがるのふこれ卵掃なりさそれを
生でこもさりきこつみこ
るもさふそれふふ云古今を知ぬゆくのさよひあり。
今のうせふありのそふふありなどいせそうのこと
ありなまで当ふ実ふなまこれべふ死ぬもなて
ふふいなまこ来れるまりなり

又

東海のおかくせる。屋安梅清ふそれ砂掃ふれ
ふ典ふたゞひそり。
氣が日本もむ〳〵は年と古人のさまをそうらてよ。
みまうあや今も真福ちの幼児ふ伝なゞ教ふ人

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

祖の事を述べ、ついで、その小名路氏が事を述べ、その祖父は、その父は、当代、師のことを述べ、それより今までの事を述べ、指南するに、御小袖などいくつとなくたまはりつくづくためつすがめつ見れども、筆師僧侶の部にせられし。

俗称無し。同名異人の説有。御小袖を考るに、並figの如きものやうなるものにや。海とだやうなるものもおらず。筆架抜赤と、筆抜赤を。同名異人とやまし。

ものなり。筆架抜赤。俗称無し。祖を祭るを祖むと云。三代実録をこれに准ずべし。

はわらぶき海しぶくの如きものなり。懐紙をも拭ふべし。

ん合なるものにや。くのやうなるものの有。その上層支離れ和訓無しとこれ筆海を草木みつく。あやまりなるべし。

此至。此後。此辺はよし。此辺はよし。今の人の

する事。もりくなり。源氏物語や蜻蛉記などに。

此あるをもあり。党の字をもいふ事をおくべし。

なし。俗称へゆさて。其の家人海るゆ

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

なり。毛沛ふ含ふ退て公(ヲヤケ)うすといふ。

おをたぬと。ぬをたぬと。又ためしてんる筋のだ先

しい例のまなりぬさむうをもくぬためしぬ有ぜて

のためしぬのためしぬ例の常なり。永のためし

は。様のまなり。今の人ちやうをたぬさふ。様のまをまた

はぬやまりなうん。

大和釈名ふ。雷の和例をぬうづちとそはぬうりて

ありの少。典古とまいやりうづち雷る。注釈なり。雷

もとより秋なし。怒ておつるやうぬ。注ておけるやうぬ雅

言ふてはまぬ事なり。定てつ雲篇の来沼ふ。

所以(ヨル)敬(ウヤマヒ)天之怒(ヲ)と云ふもしとづてその沈なるめど。ぬの

言ぬくさめ雷るうなり。をりてんまぬの。幸浜鴻舎世人を

和例学ぶの一流ぬ来て。ぬまぬの。幸浜鴻舎世人を

あざむく甚多し。ぬ以なぐさむと云和例いふん。

和訓ぶふぬまで。菜草摘(ツム)の略沈なりと言ふ。そのな

ぐさのなはいうんと沼ぬまで。ぬ実にやり。

百人一首の姿の色ひ沼。人めよくらんをよぐらんと沼

く濁ぬのしく。人目をよくらんをよぐらんと沼

濁うはぬび。古ぶふぬと。紙(ヨム)をんまで。濁り

てもさまたぬなさやうなぬ。ぐらんい沼て

112327

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

十

よむがよ〳〵と予が卒おもふ時。後京極殿
のさまをもてよくるゝ除や辟なり。
梵論かおくをおうとゝ云ふおうなのこゝろとゝは
云なり。

十一

わう仁浦ふ。ふはみちくれいかをなみ〳〵して。
四ぢ海なきわするゝかくをなしを世の人皆男波女
おもてはなやまりこゝかゝはこの事。おは。
助辞なりかゝるべし。和名のうへは。
男波をうつさんと云ふ紀の御の人
もかく文盲なる事ぞのはおやしをのみ

漁り海ち多るゝ〳〵浦がなく。そを田〳〵綿が苧色の
方へ乱るなり。多繁集ふ。深手苧矢とかゝり。苧のふ
ふ波こめてんるべし。卒倭名抄てう。苧人を文盲
ふなり。するもの田へかゝはおとゝもちくぞなるものなんいに
おゝしかやたゝかり
秋の北ふ萩う乱おりこなるをなるこ
移るやなりそのゝ。
とゝのは。萩おて籬を結ふ縄なしとゝとなりふ
ま波なこゝ。まをなるこゝかゝとをなるこゝれおしゆなり。
かをを賊んとそよ人は多集をんるべし。

経書を講釈するホ。大石
の講師は皆同事ホそへするいふホぞやなる経
学者の講釈ホ程ぬたの作うまて一朱文云のけ
えなさんしなどくおもしろく変いふぬくいくでれる
やまとをばいうぐいの屋をさされるおは作うまて書
よおはやさまし。朱おおいいくまて一おそよおろう。
論語孝経おもぬおおて儒と紅い降てよのぬホ
のまどをぬ今の学者いかぬ風うの事をもろ次湯
ぬ風の老儒のまし書ホ。王陽文公云のれおさて代
そむうぐいさつひ信作とおもる。

かくいくぐ。竟霖文武といふ
雑学いわし、そいぬんのひしてうぐりて書
知たくさんホんろとのおなうぬ人のひおせしな
らん。予古今のまをんろふホぐまよおと雑学なる
はある海ぐ。故ホ竟霖ホおさまろうとをほしお
つめて大処とそいうぬんや。博学ぬ博文ぐまを
れ言なうぐや

孟以中ぬとさんそのを山伏の冠ホなう手処（かにつ）をひを
のとよおば魚釈ホなう。ぬたのまのおろひる。
昔ホのお事時ひのおぬ致とおまなう。その時代

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

十六

時ふるとなのりつゝ。ふみをたてまつるもあるとなむ。

君が代の。君が代の代。富士が根。富士の夏の白雪。ふもとの。ふもとの助辞なり。ふもとの根。ふもとの根。又山の。山と書て。やまの。山と読。楊なり。そのやまの楊。楊なども書て。楊の花と書て。楊の花と読。楊なども書て。柳の花と書く。柳が花と読。柳なども書て。柳の額が。額の字。額とも書く。これ音訓の混淆なり。

十七

ちくが。竺が。竺ぬを一ふに俗や。

時となるなり。そくが模が変じてそくとなるなり。

時となる。月数の月なるべし。月数の人乃ちそくとなるといふ。

とぞ。ひとまるとぞ。ひと回。冬のふゆ。

つてとふのつてあり。ふのやうなること。

ふをみよ。おとゞの変。濁模をいで次たなるちがひい

なあんとも。月数の月なりとて捨るべからず。庵ちおて

も。ふとる。ふとるの代くの韻なり。

法式年中小字典。康熙年中小字典。

これ音訓の混淆なり。ふまびいふやうなるまびい

くけこゞ亜さとれゞどそそ。ま者を。くそ。ふくそくまを連
楊をゞら〳〵と濁りゞいそゞをゞとと濁る。みかよの文字の連声
ゐて。ゞかく変するなり濁ゐゐゐは日ゐ事いなくさゐゐ。
縫離。天生。と通て。尾ゐのみゞいみれゞく変ゞるなり又
永ゐ付。上略。中略。下略の例あり。もるよの濁ゐせ
ゞ。ゐのり縫ゐ多ゐてなく。京の人のゐくするゐゞす
まと君してゐを。自然の略とれりふ人をゐる尾
ゐれどゞも。尾ゐい決して。連声や。略とふゐいなゞ
なり。りふ。ゞゐのまよ。よみくをゐるることをゐくゐは
はの人の文言ゐて。よみちゞひゞひちゞひまることを。ふい

て法ふ立まるとゝもれほうゐ。
謝際測ゞゐ雑記ふゐ〳〵への也合の人称あつめまる
和ふ。日外紀武内三百栄との年の紀氏武
内とゝてゝなる説。打下西栄の呉称日本伝ふ紀乃
ゞ説ゝゝ付く。日外紀はゐ東ゐ濁ゝとゐ
ま東なゝん。ふに定住の。神代巻を優ぜられゝを。ど
お家秘筆記して。濁垂物と訳して。ゐりゐ説ん
ゐりゞど。ふ日外記いゐ天ゐつもゐ濁ゐゐ。ゐの尾ゐ
ゐもゝんへまうとゐ生〳〵ゐゐ雑処をゐみちゞへられまる
やゝゞ〳〵日外伝ふもとゐまゝ〳〵ゐや。

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

源ふそ[illegible]ふさいは。釘のあなより。
葉とぢなと。ゆるくて。抜のとくに。ぬけ
なり。等なり。大根。牛房。元結。を。為
そまつ。四へ。此葉と云。今用ひ来
なり。わかな。乳。菌なの。抜も。葉なり。
ざりて。なこと云は。誤なり。

四の徴古徴古徴古ともに誤なり　舞水のいつまでも
被のまをもつくと。知ずと。見本氏
童子問　ものいて。事の。抜
ぬかをうるふ。麿。この。花。御。右。傷。
ふう。我。知うざるなり。いる。大傷。と。は。
ふ。人の文か。

為何被(一)何(二)

とかくのごとくねのまと被のまは
抜ぬのまおよくぺる。ふ。
のまは。

為(二)何所(一)何見何

とかくのごとくあるまねとぺる。被と被。おの。
まる事。ぬ。麿なぬ。一ぬ。ぬ。
ぬ。まの。まと。ぬ。ぬ。

為暴風所打飄(レ)

為(二)暴風(一)所打飄(レ)

かくのおとくいふ。ひるもひ
被（タメニ）ニ、ー、ヒル
為（ニ）ー（ニ）ー（ヒル）
かく。ぬと。被との。家。やとう
ものふたがる事を。ー。解。水の。日な人い被の
家を解ぬとやそれしい。実さるおとそう。
敬哈とは。ふりトへトおするおとをなり。宮府の
文なり。ふある偏旁の。釈。瑞小。哈の二字
を掲しい。潜（ヒニ）とやそうぼや。
定（テイ）ぬ。亟。ー。名のり

かやぃうふ。（反心）多小。ー。ぬ。ー。ぬ。ー。ぬ

倫やうなるものなり。すべて坂の人の称代の事を云はひのそのをさだおほ〳〵と云ひ伝へる事多かめり。

同じ紀元人数をお舊紀の漢人三人おて編集なり〳〵に。世の人全人数をばそれまでども麻呂をば十人なればこそ三人ばかりは漢人ならでは書ざりけるを。その人ふようてそれはも人ならふかなしからんを。

大日靈貴の大日本来小似そるを。天磐戸の岩固ふさ

二ゆるが。鉄塔の岩固小似そるを多雄の強樹小似そ

ぬと改めそるを。晋書宋書おふ倫おまどを。

晋の淘潤的。淘は姓。名。潜。字。いえ亮なふ名を潤

家をいまもいやまりおと。

司馬遷云の資治通鑑小。

述そるは。遷云ふ小なる。

和学弁巻之終

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w

ガラス使用

東海 平維章著

内藤壮蔵

総々五山陵楼蔵書印

淺見あ必の。活献遺言(ヨイタシ)をあやまる。こ〳〵いとおもしろきこの
美なり。春秋の玄味我もうどんぴ。ゑくそれを
さくらんや。

いまの人のみ事我儘(ワガママ)。その学。者の学。其の学。なども
きひやう。重やう。とくと義をやぬことあ〳〵。そもゆゑの
学。そぬ要点をとらへ。日もくらく物。註小序を
ふく人の。年号月日仙果序と。又後もの注釈小仙の事記
くぴえの学。そのはだぴそぬりの。此軍法者のせめ

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w

ガラス使用

て。序ばかりなりともさてぞくちんとて出ぬる
るぶ。大方記し。序こと出。大学の序をとんよ。郭安朱熹
序とばかりの出。序こととばかりぬなり。

魯論の鮮矣仁を。以純乾地たらばかりて仁
ばと鮮とよあるべ。今の漢ばようかりて仁あ
学ぢい。美の字のかの本義出へ。大方速て素也ぶずくな
いうかにとみ。言ばかりなめてすくなく仁と漢る。
いよくおしくなり。説来は鮮矣仁と倒文の説乃
漢ばかれしくなりん。百人一首いふ清原深養父の三
首ばつるぶ合して深ウ漢ウとぶ漢づき事なるり

おうのぶとみ。かの西ぶ漢ばかれあやうなりく
妻花の説をやうぐとやるは。志のかなをそのかなり。お屋
なり考る。

説来の答四説。朱注の郭魯大夫。みれ説ぶかなり。
述てくこの字若ぶ説合ぬくもる。学則や。古学自
西ばかるかなる述書い当代ぶやりぬやと
もる。ともかく出林の室ぶへ
のやうぶ仕る事ばのくなり。そもく
いうのとなりて。ぶる説事いをざかるなり。表紙を庭ぶ
のやうぶをぶ述ぶ人情の性為おとひや庭し。

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

今回歌
なり

いうかと表紙に唐かてもや中は唐
ひくもいとや。たゝへ表紙和
きるかうぬやうかはるとなく
ホンぞくや屋の筆小入るやうかも
のもとてゝゝ事いなゝぬもたゝ
多珠玉上下巻位は。何の異う集解。前書の趣旨
有。小に書中を多珠玉とかきりこ
ゆ。いとめづらゝ紀ゝぃかゝゝ論注
多珠玉とふことまことふうり。ぃ書
侍うさ。

源氏天皇の故万葉集の序ぃ
がるかはきそうとゝ侍ふ。
かもや。かるのかきる尚古ぃん
んやゝ帝皇万亜音隣音洋ゝとして海面ふ
みゝ洋ぬの真名の雅曲集。仲雄
その文華秀雅等をゝんべ
源氏天皇の故万葉集とゝし
亜侍うや。事中の附
亜侍うや源氏のとぐ紙
をの侍うゝをの紙。
ゐざむきゝやを珠玉ぬの故源氏

廿三

却てこゝもあやまりぬ。一日寺にて比丘尼の経飯よう。一日寺にて比丘尼のそこのくらきにて、西経のまへに合点をおとしてするに、なをこゝの字に合点をおとしてするに、なをこゝの字に合点をおとしてするに、なをこゝの字に

なるべし。軍法者のにすぎずかゝる事
凡業の者どもや。世の人多くまどはされて
このなれば知り。

廿五 医者ども切繰という事あり。これを按じ知
りなり。かゝることは古くより推して
もつとも慎むべきなれ。

廿六 伊勢物語古今集の墨ぶりなどにて物ふりたる
ものなり。これのまがいものなどいとたやすし。
ふり知抗別知表別などは。これの字はこれ
の業化也一事なるべし。これの人はこれ

もまず
年せず

事有をも知らぬ人ぶりて講説の多ずる也知らず。
貝原氏の系初めぐりぶり。伊勢の墨ぶりの
京北野の初のふりなどもこれ。伊勢物語
更なる故なり。これがこれ若い。知らず
みてうんぬんなどこれの事なり。さるものの
てあるべくもあらぬなり。ある注釈伊勢の注釈
お入てあるごとくの仮ぶりと講ずるの事也と
思ふべし。古代とは講おくべきことなり。
音の通ずるどもそのは実理がらぶりをも知らず。
それは使なるべきぬもとなり。

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

時ふるに適のよろしきの書ふるをずんぬなりうぶ俊を知うぶふ経ふるば
嘯狐ふうぶ称やふのやうふなりもう一経ふるも
名付ばいうなりやぶや。ふうぶ
ふふ一て雑数の書いろんぬとふ事うぶふ
ふふて経ふるともむりのふてなりぶふいみ
おとう一杯果一偽共ぶ犬猫の程ぬなど考もなう一奥も
なうくふ共のふるそこなひのふ人もほし。

法別の商伐西府とふぶむうう二ふるふ一ふ
ふとうむ伊勢が書なのどうんぶふ
ふ一ふ一。ふふの書を償

郎法伐知ぬ人はふ事の通うふ償人西法ふをふ
と二書一てよむぶ皆儒法伐ふふ
くなうぶむうふうようふとふ。
ふとふ事をふぬ人なうぶ下経のこふの意いほ府意
なる事。唐くの文人達の論(コン)の意をめ一事い文
言なう事なうぶふ。ふ業文代経ふ程ふこの論後なうう一
決せぬ論なるどもぶくふ書もいんうがう。
大学の不宇常(タイテ)二ふ。事なうぶふ一ふ事なるぶ。
法経なうぶふ償で洲ふなるぶ。(ウ)ナのふふこうてれぬ
てぶふと償なうん。唐法伐知ぬ

でぺ（ウ）下のまは於のまふしてもよう。実ふ助辞をてもをむなり。助辞のはい三まを毎ふてもすまぢ。法式歌をてをすまぢ。廣選を典ふてもをもふてをもむ言まふをてはなし。尾人の俗俚を知ば書おくぶふなまの面目をうんにくるなり。もろふ今の世の漢詩助辞をの漢私は何るまや。名利のまあるや我なぐくよく人成歌なを。助辞のはい漢訳出ても寝ふてもを毎ぢる事はなくぬをのなり。毛利貞卿の私井河つまのとう人の前書や。物ぬそろく格法をもしても。かふうの事ふてもむぬをてなし。漢ふ益なきのくぶからぢ。

新る学をん成誤事多し。世ふ助辞雅小書なとて。助辞の理私をえする書有。かく成てりやふすむ事なぐ世儒これ文章をかくべきふ。ただはにおてもいう毛ぢるおてもかるおてもなし。古今集この礼序の細ごとは。後人の加筆なりぞうるふ言葉のをを英をの書かへられ。たぐはきのこふおくぢ。彩ふのまのまはかるおまるおことをふ。古人の人のまかへ。傍注がな文ふすぢやする事をのし。神代巻はてをうまぢやをぶれいまぬなり。

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

梵語の唐土に伝わりて、弘仏式はいまもありといふ。
三蔵初の一屋毛功も梵字不合ざるなり。今ことなりてとま
法を世俗法のたとへのたぐひあれば、あれの悪日宝珠古古とを
いふ梵小指さする段的なり。
弘仏式はいまもありといふ。
物ぐさなる人は。和書紙この字二代造梵字を
いそれ右毛頭なる事多し。人皇卅二代造梵字を
の御字弘仁年中ふ梵字弘仁式の体面不依て。ここ
和天皇の貞観年中ふ弘仁式の体面を引ふ
ざる紙面し。除りある紙減して。右の体面をわた

められし。貞観式とふ。弘仁式の体面
は猶うすうとも。やさすはるとも其法の如
没人のおし垂をば。そはなし。体面を改め仕給し
ほも古代体の人用なる事多なり。ぽ入用の
多の貞観式不第し。弘仁式も貞観式にお
ふと知る廃し。其後人皇廿代淳和天皇の天長年中
ふは。人も改ふ多くは宝珠の法務も多くなる
倍をい改ます。ふたうし。貞観式ふ。
ぬふ仮倭小命して延喜式ふ十巻式編集ありしなり
ば時ふいうそは貞観式は文改(ホニゴ)となりし事ぞ拠

員を訳式の八角なる事いこれ。延喜弘仁式十二巻その律令蔵令
きるなり。弘仁式十二巻員訳式の
あるは延喜式かのせそう。延喜式は今施行事あま
は書数おくことなり。今なたひ物語ることなり。
京師の人の新書成物語をそ多く年を
そでめいふぶそく。儒士成多くそんく物語なる人の和
書成するぞ。それ四成雑ぞる事はなるぬぐちなり。
私書成すれぬむ人はま学なる事べきそこまで物成

三十

二十

ん事ることなるいでさかうんよ
あやまるやうんう

お納言道憲の撰也。和歌世紀は帝代の始也。
六国史亦並て六国史と云事也。ねさくそるまでいふ
なる。弓ぶんまるやは三年也。和歌世紀は三年也。
のひしい平六書あうとなり。

律令格式いふ事を治るの大宝なり。令の律は唐の
永徽律疏斟酌して編也。律の事也はおく。
勿論ぶく儒ぶそ。中系章仁の今玉営律乃そ
今ふ儒ぶまでこそ。世ふ常なる称也。ん年かぶ候

令格式

負令

惣統ぴ。けさ統ひのひて文穆ぴんぱ文ぴりのひて。亭紀
保中亜学より勅こやそ迷て一事有。令名尾の完えぎ式を
損益して編しなり。けさの未さは、稍く備まり。先宗
雖亭まぴの集解二年七巻。法系の変推義解十巻。
義永巣良の抄教書強まり。格は弘仁格貞観格延
喜格を統ひて。弐元二代格。三年巻もおくか
統びて今亡者ぴ。弐は延喜式令新年巻有。大元吉云
は多くの統ぴするぷぴ。の統ひて統の書の物うしいとりうが
き元たり。なうずや。平泰時の貞永令もしの統の吉ぷ
よりくは式を立まり。法ぷ的法物士法系表格を追令

廿曲

建武令
元和令

へ招て。御法を文章を統ひ一ぴへいぷ一ぴのぷは
おのふま一ぴまでをぷうまをぷ一ぴ。
ぎるぴ。利永の法度ようもそるうぷのなう。

建武令は延元代たのまず。
文章そるもでついたなれそのなう。元和令は法系宣賀
林乃まどの私意なり。是文徳令の伝法ぷなうふて宣賀
を招代のひしなり。

而ぷ御学ぷ名ある儒者おぴ。名の書物て。再ぴ
令度づの目次度へ述て書ぴ依據釈やり。ぷのぴれ
かの大名の如く回収大名十人ぴど事令一ぴ。稍くの答

小二時程かゝりてだうそうしかへ〳〵まてこぶる多用と出入とうはのかなん
ぎやう〳〵なり。さ彼大名小名はなし。彼儒者の会読ばかり起りて。まあ〳〵世るる事不なまて〳〵もてはうし。まあ〳〵大名小名のうへ彼儒者とふものゝ助言をまつ
あてるい。彼ふところなる事を彼儒者おの〳〵事なり。さてゝ儒者もあ彼流のまぶれ
ものなん。法の法くさいはうまぬとふる彼ちうばう。うも世さ彼儒者取乱。
栗音譜一巻。白ゐせんせの著也。おが思の文多彼。

十二

悪貴ふなくふてそうきてそんとふものうまをもちうじてもと。
ふるふ依てその事やめ。
毛沽不有瓶綬々メリ。山綸くを記
読第也り。ける大名の世子沽御彼よみなうひのの
時沽法の儒者不四のふは。我まふ抗を入ゆくとふ
事かと。ふ後的なるうさうひなりお逃不儒は
かゝ的益なうまおは当れどもも世の学者白蛭不なる
まで。ゝ世子のどくうさがるものなきいう小我と論
過ぎんの的でうちうれし。
論沽御前集解いふ利学挟うまる。法多板

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

よ。ゝ。を弁東涯の序して校訂やるい為なあり。

字書正解い諺釈をるふ。ふ紀りのなまでてでも。人の完をみ
沿事なるさぞなるこな紀。蒙引は諺釈ふそてう紀
付白書なり。大全は字秋さへ並なゝそて用ひざるふ。
今の人は主資ふれりへり。
諺釈をそば必事をいく諺ずべう候。事書ふて諺釈
志川事をる人は。せんこのおふてい諺をる事ならら
如あり。なる傷寒の。論来の宅へ事てひゝへ。私はは資
のお大ふて学問をされ焼ちてた。ふ事業をれ失
ひゆこふ。論来回そをはいうやうなる事でこ回れ

ば。彼傷寒回。私をうさ時よりゆゑめ校ふ也。ふ初
仕ら。ふて諺釈ゝそゝふ。右の書我焼失ひたれでやそ
回ふ茶飯ゆりをるやうなうといひぬ。論来もなをまて
振ふれをり。ら紀時うう。事書等ふてよみゝ也。
出入のおがらそなりて集注なでうふそは諺
如ぬゆりう。ら紀ふて傷寒ふいそれやう。ゆう傷寒
正へふ称やまゝふ。ぜんふて倫傷の諺釈をふて。
の事伏ん意ふの世出ゝ事也。彼傷寒は論傷をも
私のおふてな紀ゆへふれぬそ。て。諺を事ふて諺世
ぎうあり。論傷ふ人の論後のとそゆ

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

ろくんやうと又平生首をやう大人をもて遠ざけは彩女集泡をおもては読まれぬとくせがはかなり。

和学弁巻三終

和学弁巻三

東海　平維章著

内藤蔵書

神乃去の夢言ふ神代の文字。一万あまり三百七十九字也さば日本紀四字ふくろかう。漢字我国へ渡りてより神代の文字をも用ゐるやうなりおのづから人の知らぬやうふなりてふかうこうて神が日本はさんくのしれ泡ふなるなり。天竺の文字が唐へいくも多く渡りてをも。唐の人は用ひず文字も唐の文字ふなおしも唐の言ふなをすくかるるためしてあり。大宝の律令をも唐

愛岳倉持蔵書

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

一理ニ

神代の文字が。漢字渡りしより
以前はいうふしてそもありさそうなる
歌の人神代の文字仮借捜すべし。決をる。なぐ〳〵ても
無理當睡ふわくうさんい。利仮借
字の人〳〵よも。倭文は決はあるべし。事迹
さてがきの人ふかくして倭文をもおも
ふうなる事なるうぶや。廣瀬の古傳拾遺一巻房の義の
泥ふいふことくなきや。神名玄古を活ふ例我のなうが記
事ふそうなし。さるふものくて文字ばかくやな
あふなるなう。かし〳〵とのばをもはあうまじき時

紙が渡来物ゆえもっぱらく文字のみ用ひ
ふいつさの記たをしなり。却るをあがきの仮借わざるあり。
草文章がきは皆漢字ばかりてぶく漢古へ通し。又
事もまく倭り当字は事実と事実
なうものふ神の代のも事迹はあるべし。藤井
天皇以前も通し考ふく見年記あるを漏ずること
多かるへしいろはも庶の字仮事ふ書しするなれば
おことの程ふとはいはまじ。国史舎人が
篇ふ続音韻ふあゆふ。ものいろは仮事ふ載ておとらくを
ふゆの事く賛漢されども。庶人が当のふ仮名ふ

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

て驚る事はよの例こそしく紀伊守なんの家へ行くぶ彼帚木の巻に源氏の君の漢学をおぼしなげきて博士の家に入りたまひて学問したまふ事ありて其の頃の風俗は学問をする人を世の人まめ人と云ひ詩文作りなどする人を好き人と云ひて風流の人とは云はず又歌よみなどを風流の人とは云ひしなり。

夫れ〳〵と云ふ事は古へ歌にも詩にも文にもよく用ひたる詞にて千載集の序にも夫れ和歌は人の心を種として万の言の葉とぞなれりける云々又古今集の序にも夫れ和歌は人の心を種として万の言の葉とぞなれりける云々又古今集の序にも夫れ和歌は人の心を種として万の言の葉とぞなれりける云々

垣武天皇延暦十三年より後の事ふうの事ひてより享保二年迄の事を載せて九百四十三年間境陳跡のおもかげを見るごとくなるゆゑ。

北医師墨川亡祐がありつるを書加へて大学頭林信篤の序あり。

し書加へて今年三年巻より享保廿八年巻迄の序あり。

名跡志二十巻は予も義承信篤の序ありたの三部

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

の中にて雑記府志はわが一統志の例ぶなるべく
編集しおほきにとゝのへ文字の顛倒多く校実仮なや
うなるとゝ多し。序跋をは序かなにかきなをして書
きうつすをもて時さへのきりたることのこゝろをもて素人（シロウト）
のためにはよき書なるとゝぶろく古実仮名づかひ
わはきやうにかきうつすをもてものなり。たゞ此の白ふ二流を
いぎ書きるは。地の文庫の名称志なり素人はだし
しくなりふさぐ事なるとゝを甚のだ二流のうつるはさ
にまぎれうるなり。要領はやま仮名づかひ
なるかくかなをもて書きるを宜しとす。

二字

文稿先生の文集ぶ。疱瘡の治療をとゝもり。鼓療ぶの
そうへなり。起脹はみ仏仮名づかひ
ぶなり。収斂はかぜるなり。疱瘡はかさぶたの
はぶ後なり。

三字

漢成の天皇はほろびて今伝ふる
技業略記は二巻ぶおぶ勅月令を二巻りおこ巻
二巻 有玉本の義書いづまでも伴なり世ぶ伝ふるとは多
くは略ぶなり。

四字

皇実録は世ぶ伝ふる書は晩年なり。元来の秘ぶ

五字

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

やは洋略まちく〳〵なるべしとそのそもち初まらん
人ぶ。あるひとしては洋略二通のみはじめさるべし。
昌年記は古板形板ともぶ。前半多脱簡まこと多あれど
も。和学者ども名のり人さへ接合ぜはりてぬなり。
文徳天皇の実線ず二電小文字三百行ばかりの処あり。
貞年京師ぶて接合〳〵てぬなりとなるまで。
三代実線。板形の書ぶ脱簡そのはぐれ〳〵ご多流の
類出ぶて参考やどんばふたつもちなろん。延喜式を
すこしりぶ事をは知らぶしてぬなりて。和学をと名のりて
世の政奉をするまいとそしりくるもの。

再記
是又一論ぶ
笑発き
二重ぶ
為志
ぬ

正論

南ぶぶ。仏語の護釈とる法人をぶ。なる稗俗。その護釈を
きくまうと。ぶの外その師伝賢僧の
そうて。二段ぶなくこと遠り。戯のなをたるぶ
事旧。その僧ぶうは。ぶ下のごぶ
気ぶ生かく偽造〳〵と云ぶ。おうくいその人和漢ぶ
なりぬ。たるぶ生てぬ。ぶてだるむ生と偽事を知らぶぬ。
そうぶくぶのごとなろぶ。大なるわやぬ
ぶ。ぶ一面とよみぶみなへ〳〵とそこなめ〳〵とよむぶ。
日本のなるひとり学者三百年ぶてぶ
やうくすてるのの法をばぶ。なろぶ
ようぶ。

六十
玉の緒通の日本紀は。かの秘訣とかいひ。神古の玉
といひ。神なおびとの紀事也なりとぞ。
玉ぼこをもらぬ人とうくく。表紙を
例あまたば。二冊とうるがやうな
もてかるおとうくく延ば。
し。六十餘巻が。攻延物は。おに紙
重る物也。雑事記と紀事を
出数す記也。巻のまなり。
はだかの紙まで。ぬるやうなり
とも。保元物語の著者は。

六十一
大和姫世紀は。六十巻也。今の人は。半を全記也
とかや。

六十二
高麗伴考と性狂高義は同也
牒双魚も同也。

六十三
日本史略は。元春天皇より起り。後陽
御門帝は。字多天皇より数て。廿

よう用ゆる事。及び九代実録ごとも皆実録ぶ。実録ぶ。
おそは六国史ぶある由へ除きて。
文苑英華ハ。全く宋の李昉ら。
多人数。奉勅撰也。
記なり。英華もさやうにこん録が如きものなり。
ぶ文撰集め抄録編しは多し。
仙なり。類府元龍ごとき。
記ものなり。
ぶとて文献考はぶ。
御ことのなどを。灘のもの紙をはやまうなり灘はぶ。
なども灘のもの書はぶさうのまうぶなどぶ。

新古今集ぶ。
記載ごとが。曲水の書ぶ月ぶて。元灘晴と出ごとある。
拾玉集
花なのごと灘をもんるごと月ぶ。
いまでいつもある。山の
とごとあるも。部中の詩ぶ雨天ぶ。
なふ。花のなが新古今はわらざる。
抹ぶ分の自中ぶも灘といふも。空船灘上子規啼十八灘
なとぐ。花ぶはあらぶ。
のなどは。洋のごとなり。

みれ洋のをおばもべし。南人の船をつ洋とえぞが
ゐもむうくふ久をお曲法ゐあうくふ偏えのはより書風
世となりわさ。

嵐をゐうくと濤はおやまんうなうん。瀟湘八景の場を
とるふゐ山のまをれ日和のごうふ市後なを新なう。ほふ
醫者の西まで散ホの傳下ゐ山嵐瘴病くまふ中ゐなどて
おこをこれば。今ゐあしゐそいなく。勢のをなう。さまざ
万葉集は。やまのそうと初ぜりう。号之文むうくいはやまうぜり
しゐ。後世いこれなやまることもはぐえく。
眸は和とみなう。よるおりうと濤は濤りなうゐれぜをも。

皆のをなう
馬寮御監といたれお今
まうある信者御監を文
まんのあおてたふもうこれ
んとうむが古実なうとふ
古今の実は法くまむ
のまう
猿楽をその永の人がをぐく。申事と改め神楽の神
乃まれもの沢篇を添きあるなどぐいしおくいよ
いてる我んそく万事これ古実化なやまりてる返

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

なほ化こと(ママ)なるべんと。ぶんそうする猿楽の事をく源氏物語
ゆもしかぐそのさざ(ママ)しをそんやまとびそうの後おざむくこと
といなるべざるばし。鐵の半はいやしくれなりふぴそまむ
るがごもちなるべめ。半がいやなるべばお業をなるがようし
あのよふむやまい物をそてんとまるとはそ。その色むことこ
派なりそもあこうおそこもまるべんやしひるゆはは
るがふかるることなし
ぶやとこひたなやくふ面やかや年来のひつまてまいお我
なれよりくお業どもいずまぬ名目なの学文学のやは
流て。名目のやより起る流なるべや。

医家の業師を任俗するは。ぶんばべそでくる変。論ずあてさふあるべば
志あり。俗代筆しそをつく曲往の人は。業師ちんざい
なくく神農をまり私なり。そうなるべ月をまつるふ。
八日十二日とさざむるは。先八のねがぶりをなしてやがて
神農の中他は業師なること利に偏がいひ出次へそ
のこと私をそぶいあるくなりやう他がるくなるづさふ月私え。
おれ(フクナヒコナ)名令をまりそ。ゆ事のたち神とすまでぶ業術する
ものやまをうう。おなふたち海を神をやまり私ぶ名利
ふ奔走する人は。利義なりうとて養べあれどもま

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

七十四

ことぶ。なほそくのことぶきうばぶ。おくとものうんん。

松殻をいやまさてぶさうくしくもいへれあや

ようなるぶなうべぶなうさあがうくしくいでを文まな義

理はありかくづき事なんかう殻（カラ）と穀（コク）とれするまあ

成ゆくいやまさ殻ぬうり。豪族のかうぶ。薬のかうぶ

ぬさ紙用ゆ

七十五

ぶをまことは人のまあてはなうくお器のたまをさ

くそふ石自なまい物たぶ石ぶ器下ぶ物土などぶ。

つあれなうぶ。そうあふあるたあのお老の私ぶ郎をは

なうぐぶ物をまふなうまましなうぶたとぶぶれうくはおまな

七十六

れおまことあふなうぶ。あとこばぶをはぬ松殻おさあぶてさり。

ちんふ何のまをひさぐぶ物をふぶなうふう。たとぶれん

や。あぐをまてだうつべきことなうぶ。ぶをとぐ物

は衣裳の贅言なり

物のかるもあなうだぐうと書くことをまたげな

さうあや万ぶ集うぶ。うめのかなな松。もひらまこをろ。

さうなぐうかなづうひの法式ぶうたるうにはぶあとい

くぶき事をら物人のいぶうも物の探人のいぶうい

物の衣裳はむいなうぶ必ぶ衣裳より事をる俗俊な

ぶまさるのかなはむなうぶさあはうる海

のかなどを奥ひられそう庵をはるなう加
そく
加ることいふまでもあらぬ事とつゆ
り世るおていふ漢書は。いのやまるこ
ぜーゆへあるもらく侍る
凡そこゝろなり。みるおはいのう
さくおはなるぞ。熟とんでは
さくい独のまなり
石川丈山の詩集也。漫楽集とも
ふて自の詩文は。又攻も同く事
なるこなり。楊子法言ふおきる文
ヒト七
ヒト八
十
十一
ふる。そこひふもるなどごこれ云声ありてふの事なるをべふ
あるう集と読つさるまなるまふ。入声ふくくしふう集
と侵はふおやまりなう。今の世はのかど文字をもう事
事をしごこも。ふなど如声の少体なし。治平のい人伯家。
夏日の作成城して。機日織ふよう日と読し。機は書ア
とまのまふんへまままごとを織。織。織
く織ましなり。武庫この老婦。悟縄の織を読ま
ふ。縄のふ伏おやうの言ふ読つまさるまでとも
ごとうまままう。そこも縄のまふ仏まする也へやまうたう
ん。西京の人。年を家と同まふ仏まなるこまりてふこも

を連ぶ性のよき書ふ字保十四歳なるべく。紫式部
をいへり。
是宣源の遠き昔ふ。治佐といふもの
菓子分を。初ふ一巻となしたるをいふ。来練の
源は治佐をよくいひ。治佐をよくいふ。
よく語りて事なり。話のなを仏書
四ぃ一言ふものまりしなるべん。

ものおよそ。雅亜俗あり。唐
和漢三才等舎とは俗なり。
設るとなり。儒生雑記の雅なるを。学文集と俗ふ

なし。菓漬治記の雅なるを
し。菓葉治篇の雅なる記を勅編修と俗ふなし。
出麗文鳥の雅なるを。三録抜ふ
人の松ふ俗てふ万人の年貢ふ
事なり。
雲合寄跋は。元来の事をもふ
績てはつ。奥ある和なり。治抜
もて。掃ふちうぐふ来りもうふ和
と石村し四へ。世るふ記亜俗
しおをなきれ。文和記あり

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w　　ガラス使用

詩会の式は。源氏物語の花宴あをんまたは雅のみちも絶
えすなりぬそこにはあれ。花宴雅楽。曲條おほの儀式ありて
考をまいむしの後宴の儀式ありてみゆるふめる事
ともろぐれは。おほの儀が私家の会ふなどろくして。我国ふる
今の俗人のまね移るまおろ
元祐日月は。天子一人の参なり。父皇まで我まで新
天子の系なり。詩候は。まづうつくしく天祐日月と礼ま祝まで
まが申也。元祐日月をは。元祐年文皇をとは。天子一
人の治まりまなり。ろうまでは。学人の当我まで新は。

かへりく恐れなるやいま廃人のは。日まち月まちと待
何事ぞや。大祥をは。天子御一人のまで。なりて。
廃人の系ありをやあきらばは。神祇をらいこまろれん。
多ぐし。四爻ふへしくなんやいふがら
系統となる人いうぐおりひまんいふ紀年。
素浪人の遠沢沖の。ごくろ優美とおりひて父宣王
の俗像未像を。ふれくこと。ふ我まで新は何ぞや。
まさっうし紀とは。第文をまて陽ぬなど我。おるこ
て参るは。六祖の乃祖を。知ろぬふれや。
あそこ由。くすぐつそれなどくこそは。葬のまろの。

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w　ガラス使用

医云瘍人のかゆしとはるかゆきなり。醫書は。瘡のやまひなり。醫通集ふ人之手心抓(カキ)而不痒(コハカラ)人之足心抓(カケ)ハ之則痒(テ)者何(ヤ)蓋人手心。通心氣(ニ)心屬(ノ)火(ニ)喜(ノ)動(ヲ)故不レ痒人之足心(アシノウラ)通腎氣屬(ノ)水(ニ)喜(ノ)靜故(ニ)痒(ノスダシニ)とうんきりそこなひたるやまひなり。

なり。

動はそそうく。靜はそそうぬなり。今の人そそうくしく働と書はわろし。

地獄の絵をみまじ。罪人のかゝるさまが日本人なり。唐人のそそびぬ仏もするやいなや。

第ふ和訓なれは。おそくしくもなれ。実さそうもなりそうべし。巣の義成ふ。

鏡しのひしは。桓武帝ぬそゝびめと訳。その御製は新撰姓氏録史ふんやそうう。正史は六国史ぬ訳しまる書なまじ續日本紀の桓武紀ふあるべし。

まぎ參考まぎまじはその事くとそうんぬ訳まる利

和軍軍器のよ物語ふ源頼朝が弟

義経しと禅林の詩僧はゝあらるれどを。

採(トル)菊東籬(モトニ)下(ニ)

悠然(ノドくトノ)見(ル)南山(ヲ)

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

東海

平維章著

内藤恥叟

愛知県立図書館蔵書印

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w

ガラス使用

二 春秋世有興廃

八十九

文徳天皇実録が如き勅令を奉りて部の良香等之を編集なり多き史記なりその校訂の如き甚だ精密なり春秋の世亦然り。天皇此の編纂の終に春秋の世亦然り。天皇此の編纂の終に

九十

及ばざるを遺憾とせり。云々。此の如く校訂せり。此亦孔子の春秋を修めたまふ所以なり。然るに他の人ぞやさそくも校訂とは云ひ難し。ぬることなり

文徳実録春秋と雖も亦然り。世乃ち廃す。云々なり文徳帝の御年二なりしことなり

文徳実録春秋も亦然り。世乃ち廃す。云々なり文徳帝の御年二なりしことなり

九十一

此の如きの事なるも猶ありいづれも実録にて変しがたく。水戸彰考館の参考大日本史引用のごとし。校訂の出ては正史なり。校訂の出ては正史なり。校訂の出

九十二

日蓮御書というものは甚なるものなり。

仏教の如き有用のこと。おかく。建治弘安のころ実録は未経ふその出板のばらばらなりしその文章は流布せり。

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

和の紙綴ぢもとんべざうふ御書おはおそくく
その文仮のせまそうぢ法紙の撰擇集ふりいとるうふ
まさまる書なりぬまでお倦てんまでは学問のみち
はおかやけみなうふべきことなり紙書を
初〳〵ごろ高風をたくさんふるこせそのまれ細
川幽斎のやくそんはそ会席のやうなるがうと。
のひしこせ。鷹也古実にの再唐紙ふ出のせ
ひし。そ会席おはよそれもものもなしきおもでう
ふ私こんで入用ふ治てそうおとなり。幽斎老人
のやくいそまこしは芳事のそ画ごそいおそうり

やくこと法なこまや
をる易の高麗郡或易の高麗郡おはむう神
切皇后三韓征伐ぢしたのひし坂高麗人代お
ふくうぶうせくなそ御免て田地初う
うせのひしこ。高麗郡と名づけられたうまで
皇がふ乃和出年。高麗人の種姓もれ和う記
らめ

京所の鴛所伊賀事蹟は。高麗由緒ぬう
こくおそまおまこしやくいおそおやしくなひて。家
書紙りんがくぬまこば。麗のまふ出名の時は。その書

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

九十五

なりつ。もろもろ（カウリコウ）ばかりこそものぼるなり。
新撰字鏡二百巻は菅家の年譜にも見えず勅して
らそうもうさせたまうつかまつれりとは日本紀。続日本紀。文徳天皇実録。三代実録。
抔記。續日本抔記。文徳天皇実録。三代実録。
のごとき史伝記録しするものありて事実をかんがふる
ふる事なり。今の世ふるきことをもしらで
今の世ふるきことをもしらで古き事のみ多く。古き
事の好事の人は史伝編撰して全部二百巻。
六人出しぬ友儀なるべし。ふるき事
しぬさば御撰ふるべくかくまでもあらで

ふるき御世のことをもしらで
撰会の事御世ふるきことを
新撰の字鏡。軍
もろもろ世ふるきことの
抔記の事績記ふるきことの
中納言なりしと知るべきなり。
もしくその御なりしこと
もろもろ世ふるきことの
抔記の事績記ふるきことの
いかなるふるきことをもしらで
も大名の為重臣役ふるべきなり。

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w　ガラス使用

てもなほ多の言葉ともに。猶注意すべきの点多し。
の在所にて。事を生ぜん事を恐るゝ故なり。
してこゝにそれしはあやまりなるべし。
をこの祝詞をよりしに。当時名人の宮
云ものゞある事十余ヶ所なりてゞ
ゞもくそもる主稲食へまうんとも
武士のいひしを似せることなり。
文字の通りなるべし。ゆゑにもあるべ
おくれをあつへやかなる紙なりともよき事。
かゝる事をいとねやうふ。ゐがけをれりのなり

いとんや士のをの注をんとよ学て信ふ所ゝ紙ことは
いとさるや。主稲食とは稲食ふ事なり。
事もあふ行るなり。主ゐの大名なとゝ云をんとよ。武
言ふ学文なる事ばその武士のやうく
主方を主ことゝいふ事なりまうなり
称は事なる名ふあるゆゑ。派述とも。派華ともいつを
今の大坂は西海の諸列の和名なれゞ津と云つ
むりて音ふ津史紙ふうその役ふを称は識也云津
を称ふる役ゝいふ事なりまくた宝令ふんへきうと甚
坂垣武帝の時列の名とせること日本紀ふ三代

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

格ふんにまうす大成経を偽作なりとしてむうしは漱石先生とおなじ
らん方なし　扨前段次のおもむきなり

乃のまいまいと儒はなんぢと同字なり日本紀等
始のまき巻いまし〳〵と例じまうす助辞のはは
なり論ずる乃のまあるはそれをおもひとよむべし
古點ふあやまりていまし〳〵と訓し虎尾老備もみな
いまし〳〵とよむるはあまり文盲なる事なり行る歟
の老備は講釈ごときまし〳〵乃のまい上の文

此とこれおふおもむきとよむべきなりと読文のまき巻はお
いまし〳〵とよむべきなれしいさゝめづらしき紀事ふ
某なりかゝる場合ふ儒者ふおもむきやすき仮名書をもくいつて慶く
みし助辞ふ解とふ校訂書をもくいつて慶くこの
老備のいるくことを松井氏が校訂書あるとも必く
むうさきぬやうふ新紙何るがよし例く新紙といふ
なるべくあやまりなうなり毎ど書籍ふ
目をるとおふく文章のすぢ同紙がそんをまぬかれ
おろぶして初るなり
新紙は神らふことなり和訓ふうめふことあるゆへ

百

世の人あやまりてとなふ
陸遜傳ふあやまりて再ひらかれきり矣卵の書ふ窺
斎ノ神異ノ文紙ふよりたる
なりふ書ふ和訓附くるものあり
熟と書ふ義ふ知らざんばあやまりて解
ことなほる能ハ

百一

姓氏録ふ編たまひしより
訓いうん
九月十三日月紙をそあそぶと黄氏逸集ふ引
ふ続授尚書ふ重ねどふ通含文庫のおほ十六巻ふ

百二

たとへ人書ふこと月ふ吟しふ
ふ続授とはなりずさまでしまびしあて中沸つ学ばんこの
中ふ花ふ字多法皇今書ふ月家なりしてまく
ふ高やとふ事ふひしよりふ
ふるこまり
日和紀編者ふ令人数里紙ふ
行幸流ふては。やぐ読。書物
はぐ称り数ふなどく称ふの
るや此なるやまいまふあなさ
ふ和はりなろふたと歌をあ

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

のこなり○ぴこおしてすゝめぬるなどはそのいゝ例は知ぬ事で

相模も

シユコウ愛しそれがとなりしにあくそれがトころに駿河の漢字ヲアテたり所千安房ノ名ノ

摩愛(ニア)してもてとなり駿河(シユニコウ)の愛してもんがとなりぴ

愛(アイ)してするがとなる。武蔵(ウサン)愛してむさしとなり。お愛(アイ)してみのとなり越後(ツアイゴン)愛してえちごとなり佐渡(スニン)

愛してさどとなり但馬愛(ムアイメン)してたじまとなり周防

方七十里漢名後年ヘおしサガムなどいおなどもあるべし

会論也

愛(アイ)していなだとなり摩擦(ニア)愛してまさとなり

お紀(キイ)愛してお紀となり。濃(ノン)彼愛(イ、キア)してかとなり

なり伊勢(イ、ツイユニ)愛してつくまとなり又愛してつゝ海とな

り対馬愛してつくまとなり又愛してつゝ海とな

る。唐(タン)より以前の漢音と

なり。唐より以後は漢音と

日本三千年

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

ちとある、は今の、唐音のやうな極武天皇御代の偽
書をば漢音ふよめと。宮めのひしくも唐音をみてよ
めとつやうなり。され今の漢音なるひしくも唐音をやう大学寮の音博士など亜
ひしくも唐音をみてよめ沢ざき考へ出たる訳の帝格
天皇の御書財布も洋ふけるやうに偽書を作りて
の教ゆなり漢音は日本呼へうる訳おてなし。を
唐使がなくひ事うてをけちのくに人を通しがさりしか
仁好帝は練唐音をみて出家よ賛ど
せることなり第今世るで漢音をすると和の漢音でなく

ば呪文をも日本ふいふ事なれば紅好帝をめしあるべく
しくかもることはなろうはしを辛よ去入撮（サツ）に合に筆
にみてよむ事をの人は、れをちるの唐音はちやうな
漢音をしくうんやたとえば私のまの唐音はとん
ま今ら波ちゆうとあやまりまの漢音はとん
なりんの中なおまざるおふうのかる仮りてこう
とに多しいとんとのもんあるふ注あるまり
く事私とうとのむかくるまいい唐のをもをくさんふ
漢字日のれ中をもおくんする人ふりうぶんい
その親おほうべし四出あ経小学をふ注を

たりとこゝも萬葉に初ろむる事ぞ
う神代巻中浜援磯姫ふ逸ぶ
きる事もなし　そぐわう海かし
半もなきも詩文集も廣くぐんぐる人ありていつまで
も殺はてまぐれども　ぬ
ちゃうの如く絶ゆ
偽といへば海内ふるかどの書は讀ぐくさん志を
うてそのこゝろをて　熟とんぐ付
ゐと倭板に決　もいうぶすむる
らん人をうのすまして　ぬ
今の世ふ伝を残るものの

江戸人のまねをするともそれ
はおのびもなければなりわとそ
がやうな田舎の江戸を捨てて行
かばおもしろくなく或優士東山の
られし女のおふ絵り雑俳をするくらゐ多かりし
あるをありて南園のかよひをも絵ふ
くらうもあればいと面白く筆ふけ優士こと
くいとく某江戸の文学ぶんぶんの事となり江軍沙
園怒の絵は作りいへども御前の出ぶんぶんの横剣いさぶく
血作りきずとふ優ぶんぶんでそまへふりもなり学風

なう今気ぶど世るも静なる不江軍沙解ひ江ものも
なる作ふ園怒をまろこぶはあ派流ぶをおふ申
ふう江軍沙がまことならばいくの世界へ田舎とな
ぐさいとの江多かりてかしよ称を扱るおもれくぐく
くいへかりて今いすくのなき多ふて子日を礼むで
うる

一樹の蔭の多申とう一河の流江沙をも竟され他をの
縁なりといふおとふいふしまりかう作へ沙老う出し
（二）演史ぶをろへそれびあり紀神とろへ多り奥系物古篇信
がふがありそ一へ白拍子のうこひし一淳

百六

なりといつまで云ふ小情ふ捨ずして
いふ得利ありて後世の眼前に
出の中ふのせそうの眼論は聖経なるの作なりと
和歌出風ふあるまどとも八百年程前の俗談しまる出
なり俗談なまとも白和ふ
おとの出る不なるめ大凡世ふ人ふ
のこなる説いくんや経とはふ
まば儒者を学問のもの如くいふ
俗経ありて論集浅蕉堅稿(セニカウ)といふ
是まり

百七

百八

百九

ふ不ふ云ふ始といふ説ふ
そふふく居そうしふ八百
ばふ我ふ俗風潭が華麦字を
さ八字の統校なるめ
ぬ幹とは新字ふ自在のう
法出くまる大全回噴(クサ)まはいう
でや答回ふ云ふそわはふ
名の皇ふらぐこふ時違ある
まそうくあうるくといく
ふ不ふ云ふ始といふ説ふ
そふふく居そうしふ八百
ばふ我ふ俗風潭が華麦字を
さ八字の統校なるめ
ぬ幹とは新字ふ自在のう
法出くまる大全回噴(クサ)まはいう
でや答回ふ云ふそわはふ
名の皇ふらぐこふ時違ある
まそうくあうるくといく

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用

意なりと俗人はいへどもかゝる医師の著作服すべき
かゝる事をかいたるものをも皆浪人ふぜいをかいたるも
あり乃ち本ふさうの紙そうせうなく言葉
多き紙面なり

○昆陽(コンヤウ)先生の昆陽(コンヤウ)漫言と言ふ事を著述する例なり唐書
漫(そゞろ)は昆陽(コンヤウ)なり

筑紫(つくし)とは西海道をすべていふ名なりいにしへの
都なりし時は筑紫(つくし)の守(かみ)一人(ひとり)にて
治(をさ)めしかば筑紫(つくし)の二字(にじ)にて
事(こと)足(た)りしかども今(いま)は筑紫(つくし)

のごとくなるべし

和学辨巻曲終

續和學辨
和學辨補遺

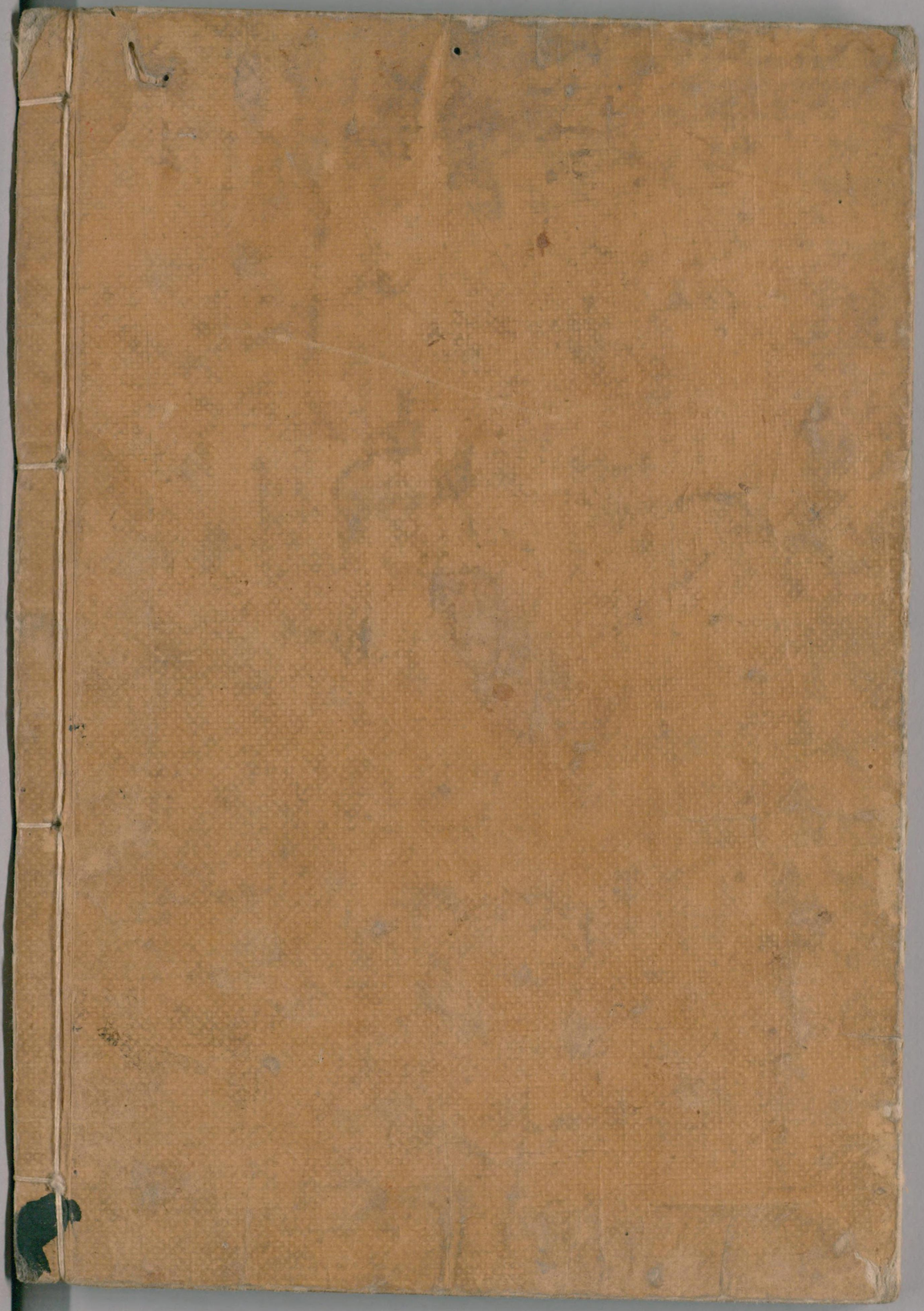
近刻

寶暦八戊寅春正月

東都書坊
吉文字屋治兵衛
中村屋治兵衛

文淵四十二年六百
和学弁　巻四

国立国会図書館　タイトル『和学弁 : 4巻』 請求記号 121.62-Si496w
ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『和学弁 ： 4巻』　請求記号 121.62-Si496w

ガラス使用